



化学とThe KAITEKI

Chemistry and the KAITEKI

小林喜光 Yoshimitsu KOBAYASHI

三菱ケミカルホールディングス 取締役社長



それを生業や専門としていない者にとり、化学とは非常に形容しづらいものである。自然界のありとあらゆるところに存在し、ありとあらゆるものの成り立ちにかかわっているから、かえって1つに括るのが難しい。また、あるものが総体として作用し合う機械、物理的な現象と異なり、化学的な現象は原子、分子が個々の環境で個別に反応したりしなかったりするものだから、素人がクリアなイメージを思い描くのは至難の技だと言える。畢竟、化学会社が何をしているのかも、世間的にはさっぱりわからない、ということになる。

自動車会社やビール会社は字のごとく自動車やビールを作る会社だが、これが化学会社となると「化学反応させて何かを作る会社」だから、それだけでは何を作っているかわからない。さらに化学会社の場合、化学を生業とし専門の企業であるにもかかわらず、下手をするとその従業員ですら何を作っているのか知らなかったりするので始末が悪い。

したが、化学会社の経営者としての私の務めは「何を作っているのかははっきりさせる」ことだ。「お宅は何の会社ですか？」と聞かれたとき、従業員のすべてが即座に胸を張り「☆☆です」と答えるようにし、聞いた者にはその場で「なるほど」と納得してもらわなくてはならないのだ（従業員が「私は○○酸を作ってますが、会社全体となるとわかりません」では困るし、聞いた方が「○○酸って何？ 一体何に使うの？」と答えるようでもいけない）。

化学会社の社長の特殊な任務に気づくのに時間はかからなかった。しかし、「☆☆です」という答えを見つけるのには少々時間がかかった。思い悩み、多少は苦しんだ末に、私が「うちの会社は…」と言い出したのは、社長になってしばらくしてからのことである。

答えは「The KAITEKI」だ。人類が未来永劫にこの地球でKAITEKIに暮らしていけること。ヒトが日常生活で感じる普通の「快適」でなく、将来世代を含めた社会全体が水準以上の暮らしをしていける状態を指して「The KAITEKI」とし、それを我が社のプロダクトにしたのである。もちろん、現実には化学を通じてそのプロダクト実現に貢献していくのだが、とにかく、企業活動の目的と目標ははっきりさせることができたわけである。

従業員も近頃は「KAITEKIを目指します」と言うようになった。喜ばしいことだが、しかし、私の任務はまだ道半ばだ。世間には「KAITEKIって何？」と聞く方が、まだまだたくさんおられるからである。「KAITEKI」が○○酸でも△×塩でもないことをわかってもらわないと、任務完了には至らない。

英訳版は 805 ページをご参照下さい。English version, see pp 805.

© 2011 The Chemical Society of Japan